

迷信について



日にちの吉凶

方角

時間

生れ年

火の神

仏壇

死者、墓

迷信はどのようにして作られるか



護国寺住職 名幸 芳章

これは護国寺の住職名幸芳章氏がある
キリスト教会で講演を頼まれて録音し
たものから記事にしたものらしい。非常
に興味深い内容なので、ぜひ多くの
方々に読んでいただきたいと思い小冊
子にまとめてみました。

「あなたがたのよく知っているとおりあな
たがたが先祖伝来の空虚な生活から
あがないだされたのは、銀や金のような
朽ちるものによったのではなく、傷もしみ
もない小羊のようなキリストの尊い血に
よったのである。」

ペテロの第一の手紙 1:18,19

目次

■日にちの吉凶

■方角

■時間

■生れ年

■火の神

■仏壇

■死者、墓

■ 迷信はどのようにして作られるか

只今ご紹介にあずかりました名幸でございます。仏教の坊（ぼん）さんが教会で話をするということは、まことにめずらしいことですが、私はどういうことか教会でお話をするには何べんかございまして、非常に教会との縁が深くございます。

今日は特に沖縄にある迷信を打破するという意味のお話を申し上げたいと思いますが、この迷信打破の運動を私は戦前から沖縄の各地で行っておりまして、本当に各地をまわってみまして、どれほど迷信の為にみんなが迷わされているかということがよくわかりました。ことに私の寺におきましてもいろいろのことを皆さん言うて来られる方がおられますが、ほとんどがこの迷信に関係のあるものが多いのであります。それで、どうしてもこれは仏教徒だけではなく、クリスチャンも、また宗教を信じない人もこぞって、この迷信だけは、みんなで力を合わせて打破しなければ沖縄の文化は進んでいけないと、こう思うのであります。

1. 日にちの吉凶

迷信にもいろいろありますが、まずこれは本土も共通の問題で



はありますけれども、どうしても一番多いのは、日にちの吉凶ですね。吉い日とか、悪い日とかあると思っている人。あるいは方角の吉凶、それから時間の吉凶、そういう事をまず最初にお話ししたいと思います。

私たちが結婚式だとか、あるいは何かのお祝いとか、そういう場合に「大安はいつですか」というような事をよく聞くんですね。大安の日を選んで結婚式も地鎮祭も、その他いろいろのおめでたい行事をする人が多いのであります。はたして大安は本当にいい日であるかどうか、大体この大安とか友引とか仏滅といったようなものは、いったい何であるかということではありますが、これは六曜と申しまして、月・火・水・木・金・土のこれは普通七曜と申しておりますが、この大安・仏滅・友引といったものは六つあります。それで六曜と申しております。これは勿論、中国から伝来したものでありまして、日本では室町時代に、この六曜が取り入れられております。この六曜は何の為に中国でつくられたかと申しますと、これは任官、つまり官の職に就くというその占いと、それからもう一つは実業界におきましては、今日商売をしたらもうかるか、損をするか、という意味の占いに用いたものであります。

大安は例えば一日中いい日であるとか、仏滅は一日中悪い日であるとか、友引、これはみなさん友引と言えば、友達の友を考えておられますけれども、これは誤りでありまして、友というのは共産党の共（キョウ）と言う字であります。共に引っ張るので勝負なしという意味であ

ります。すなわち、その日は商売をしても損もしなければ、もうけもしないというのが共引の日であります。

それから先勝、先んずれば勝つ、これは午前中はいいんだそうです。先負、先んずれば負ける、これは午前中はいけない、午後からはいい。

それから、「しゃっく」というのがあります。赤い口と書いた「赤口」、これは午前中も午後もだめだが、正午、ちょうど12時はよろしいと言うんですね。こういうふうに、日にちの吉凶を占うためにつくられたのがこの六曜であります。この六曜が日本に輸入されたのが先程申し上げたとおり室町時代であります。それから戦国時代を経て江戸時代、そして明治になって現在に至っておる。その間にこの六曜の順序が何回も変わっております。

中国時代には、支那では何と言うたかということ、大安とか、そういうものじゃなしに、小吉、空亡、それから太安、太安は大きい、安いではなく太山鳴動しての太という字、太安。それから留連、それから速喜、それから赤口、というふうに聞いたことのないようなこういう六曜であったんです。これが室町時代に日本に入ってきた時には、太安がまっ先にきております。そして字も次から次へと変わっておりまして、徳川時代になると、また変わって、そして明治時代になってまた変わったというふうに、字も変わっておるし、それから順序も変わっております。

こういうふうに、その時代、時代によって勝手気まま

に変えられたもの、これは信用できるものじゃないと思うんです。おもしろいことに昭和 10 年頃、蒋介石がこの六曜は迷信である、故にカレンダーから抹殺せよという命令が出まして、中国では昭和 10 年頃から生活改善運動が始まった時にこの六曜はカレンダーから抹殺されております。つまり製造元が、これは迷信だからと言うて捨ててしまいました。それを輸入した我々日本人が、今それを後生大事に守っておる。

おもしろい事に昨日でしたか、おとといでしたかテレビで大安ということを取りあげておりました。その時に言うた言葉が、近頃はこの大安・仏滅を入れないカレンダーは売れないというのです。つまり日本人が、まだまだこの六曜を非常に信仰し、これを用いておるという意味であります。が、どうしてこう日本人は馬鹿なんでしょう。製造元がこれは迷信であるというて捨てたんですよ。これを輸入した我々が、これは尊いものであるというて後生大事に守っているという点から見ると、日本人はどうかしているなと思うんです。みなさんはクリスチャンだから、そういった日の吉凶とか、方角の吉凶は信じないでしょうけれども、クリスチャン以外の人は皆信じていますよ。だから早くみんなクリスチャンになった方がいいと思うんですね。(会場笑い)

ここで、いま六曜の中で仏滅と言う言葉がありました。これは仏が滅つすると書きますが、仏と言えはお釈迦様の事もあったわけです。だから仏滅と言え、釈迦の命日という事になるんでしょうが、一週間にいっぺんも命

日があってはたまりません。(会場笑い)これはつまり、仏という字ではないのです。これは物質の物という字ですね。物(もの)が減するです。今日は野菜も何も農連に集まっていないから、今日は野菜の商売をしても、もうからない。いや、もう仕事ができないという意味だそうであります。だからこれは、物減するというのが本当でありまして、さっきの友引とおなじように日本人が書き換えたのであります。

おもしろい事に、大安をみんなが尊敬しておりまして、大安の日は結婚式の披露宴をやるホールが大抵みんな満員だそうであります。その大安は本当にいい日かどうか私が直接経験しましたのは、那覇市のある大きなデパートの増築のお祝いがありまして、そこに私もお招きを受けて参りました。そして、今やビールで乾杯をしようという時に、一人の男が走って参りまして「みなさんたいへんですよ！」と言うんです。なんだろうかと思って聞いてみたら、「今、アメリカのジェット機が宮森小学校の上に墜ちました。そして生徒がたくさん死にました。石川市です」と言う話なんです。びっくりしまして、もうお祝いもそこそこにみんなでていきましたが、私もその石川市の学校へ行きました。そしたら、もうすでに死体は片づけられて黒煙もうもうとしておりましたが、その日は大安だったんですよ。大安に飛行機は墜ちてはいけません。(会場笑い)

それから、第二次世界大戦が始められた日は大安でございました。12月8日は大安です。政府は大安に戦を

始めたら勝つだろうと思うて始めたんでしょ。ところが、その日はアメリカは仏滅なんですよ。一日ちがうんですからね。アメリカは仏滅、日本は大安、この戦（いくさ）は勝った！！（会場笑い）と思ったそうですが、残念ながら負けました。

それから、これも最近、日本の現在の運輸大臣が成田空港の開港の日を今年の3月3日と決めました。それを決めるのに「大安はいつかね」と言うておるんです。その3月3日は大安なんです。こういう調子で国家の大臣まで、こういうふうに大安とかなんとか言うておられたんでは、ほんとうに日本人は、どうかしていると思うんです。

友引の日には葬式をしてはいけないと言う迷信がありますね。これもよく守られておりましてね。なかには、こういうこともあるんですよ。これはついこの間、12月のことなんです、ある本土から沖縄に来て商社に勤めている方ですが、この方が亡くなられて、そこへ、葬式という件で私も行きました。「昨晚、亡くなられました。今日はとりあえずお経をあげてくれ」と言うんで、そこへ行った訳です。そしてお経をあげました。そして「今日は友引ですから明日にしようと思うんです」と言うんですね。とうとうその日には何にもできなくて、亡くなってあしかけ3日目に火葬場へ行って、その明るる日告別式と言うふうに4日間もかかりましたよ。こういうふうに、やはり友引きを信じている人が非常に多いんです。しかし、火葬場へある人が電話をかけたそうです。

「今日は友引だけれども、どうしても都合が悪くて、今日葬式をあげなければならんのだが、火葬場は今日はいっていますか」と言うたら、火葬場から「あいています。友引と言うのは午前中だけでありまして、午後からはもう陽が傾きますので明日になります。だから、友引ではありません」と言うんですね。なるほど、これはうまいこと言いよったなあ。と。（会場笑い）とにかく何とかかんとかごまかしていくんですが、この友引と言うのは、勿論キリスト教には関係ないんですが、仏教には大いに関係ありまして、友引の日には葬式がないので、坊さんは皆休みです。だから友引が私たちの日曜日になる。（会場笑い）だから仏教連合会は友引の日に行われる。（会場笑い）お寺のピクニックも友引の日にする。（会場笑い）これは、まあいいような悪いもんですね。

仏教としましては「日々これ好日」と申しましてクリスチャンと同じです。毎日いい日だ、悪い日はない。「今日は人を殺してやろうかな」と思うたら悪い日だし、そういうふうな悪い事を考えなければ毎日いい日である、と言う事を仏教も言うております。

2. 方角

それから方角の問題、これも本土の方では鬼門と申しまして、東北の方角を鬼門と言うております。



沖縄でも東北の方角を、「ウシ、トゥラのファー」丑と寅との間の方角を鬼門と言うていやります。この同じ東北をいやがるかという点は、本土も沖縄も共通しております。けれども呼び方がむこうでは鬼門、ここではウシ、トゥラのファー、クンジンと言う言葉で表しております。これもつまらない事から始まっているものでありまして、これもやっぱり中国からの伝来ですね。中国に今から2千年程前に山海のお経と書いたせんがいきょう（山海経）というお経実はこれ、お経じゃありません。小説なんです。この小説ができて、これが日本に渡って来た。平安朝時代にこれがやって来たんです。この山海経という小説の中にこんな事が書いてある。

「中国の南海の海上に大いなる島あり、その島の東北に鬼門あり、その鬼門には番兵が立っておって、その鬼門を通る魂を一人一人尋問をして、悪い奴はとっつかまって縄でくくってそして桃の木でつくった弓矢で射殺して、そしてそれを虎に投げ与える」と書いてあるんですね。キモンのキは鬼と言う字ですが、これは中国では、人間の魂の事を鬼と言うんです。この死んだ魂をとっつかまえる。それを縄でくくる。弓で射る。そうして虎に喰わせると言うんですが、魂をどういうふうにして喰わせるのか、そりゃもう誰が考えてもおかしな話なんです。その山海経という小説が日本に渡って参りまして、それを平安朝時代に藤原の貴族連中が、これをおもしろがって読んで、その中で特に「東北に鬼門あり」と言う事だけをよく覚えておいて、それをあっちこっちで座談会な

り、話にしたんでしょう。それが日本全国に広がって行きまして「東北に鬼門あり、ここは魂が出たり入ったりする所だ」と言う事になりまして、そこで現在まで千何百年の間、日本でもこの北東の方角が非常に恐れられておるのです。鬼門の所に玄関をつくったり、台所をつくったり、トイレをつくったりすると悪いと言いますね。沖縄でも「ウシ、トゥラのファー」つまり、北東の方角に門をつくるとか、玄関をつくる、その他いろいろな事が、みんな悪いと言われております。こういうふうな事が、みんな悪いと言われております。こういうふうな、もう漫画みたいな話が、本物になってしまって、そして日本全国、沖縄に至るまでこれが氾濫しておりまして信じられておるんです。それで方角が悪いと言う事は非常に困るんですね。この間、と言いましても、去年の事ですが、去年の11月頃だったと思うんですが、二人の若い夫婦が私の家へこられまして「ちょっと、いろいろ教えてもらいたい事があって参りました」と言うんです。話を聞いたら、十年余りサラリーマン生活をしておりますが、今アパートにおりますけれども、子どもも大きくなるし、アパートでは狭いので、どうしても独立のマイホームがほしいと思ひまして、やっとの事で貯めたお金と銀行ローンも合わせて首里にいい家を買いました。いよいよあそこに移ろうという時に、親戚のおばあさん連中が「イッターヤ、ヒーヤ、トゥッティチー」と言われたんです。日を選んで移りなさいよ、と言われた。それで、そうかと思って易者の家へ行ったところが「あんた

方とんでもない、首里に移っていったらあんた方は、大変な事になるんだ。死ぬか大病にかかるか、火事になるか、とにかくいい事はない。そこはおやめなさい」と言われたそうです。びっくりしたのはこの二人、いつ移ったらいいかいうて日にちを選びに行ったところが、とんでもない事を言われて、せっかくローンもそして貯めた金もいっしょにして、我が理想の家を買うという訳で私の所へまあ相談に来られたんですよ。で、私は言いました。いつも私がやっている手ですがね。「ああ、そうですか、那覇から首里へあんた方が移って行ったら方角が悪いんですか。それじゃあね、仕方ありません。トラックに荷物を積んでいっぺんに首里へ行かないでね、与那原へ行ってですね、どこかの家の所でトラックを止めて、ふろしき包み一つでもいいから取って降りて、そしてどこかのうちに行って、はいクマンカイ、ウチャビタン(ここへ移転しました)、と言うておきなさい。それからすぐ取ってトラックに乗って首里へ行きなさい。与那原から首里に向かって、方角はいいんですよ」。ああなる程、とこういう事になりました。去年の11月です。勿論、この二人はまだ死んでおりません。(会場笑い)

こういうふうな便法(べんぼう)があるんですよ。便法があるという事は、厄神と言う奴はだましやすいものだなあと言う事になりますね。と言う事は厄神なんか無いと言う事ですね。

そういうふうな方角の問題で生命にかかわる事もありました。糸満であったことですがね、赤ちゃんが病氣

になって熱を出して引きつっておる、とてもこれは重病だと言うことになって、そしてそのおばあさんがですね、「ユタのヤー、インジンデー」ですよ。ユタのうちにいったんです。そしたら、あの方角の病院に行きなさい、と言われたんだそうです。それで小児科の病院はこっちにあるんだが、そこにいっちゃ行けない。あそこへいけ、行ってみたら産婦人科なんです。産婦人科の医者が、小児科はあっち、あっちへ行きなさい。いや、あれは方角が悪い。もたもたしている間に、とうとう取り返しのつかない事になった事があるんです。これは実話ですよ。そういうふうに、又方角の点でも我々は大いに考えなければなりません。つまらない迷信の為にみんなが現在よく苦しんでおるんですよ。今、旅行する、移転をする、引っ越しをする、就学をする、合格して入学する、みんな方角をいうとるんです。

私の知っている子で、東京工業大学、と言えま一流の学校です。そこに合格したのに方角が悪いからいっちゃ行けないとなりましたね。息子は行きたがっている、折角いい大学に合格したのに親が行かさない。そういう事もあるんです。

3. 時間

それといっしょに考えられるのが時間の問題です。何かをやろうと言う時に、よく言うでしょう。潮は満ちて

いるか、へっているか、潮の干満ですね。潮の満ち引きをよく言うんです。

文部省が、昭和23年頃、迷信調査をした時に、東京大学に頼んで、子供が生まれるのと、人が死ぬのと、潮の干満に関係があるかどうか、調査してくれと言うんで、東大がそれを調査しました。麴町の区役所で死亡届といったものを調査したところが、普通言われているのは、潮が満ちてくる時に赤ちゃんが生まれる、潮が引く時に人間が死ぬと信じられておりますが、東大で調査の結果は反対でした。どういうパーセンテージになっているかというと、潮が満ちてくる時に生まれる赤ちゃんは、100パーセント中の48パーセント、あと52パーセントは潮が引く時に生まれているんです。それから人が死ぬ事、これも大体似ているんですね。つまり潮が満ちてくる時に多く死ぬんです。一体、これはどうしたのでしょうか。我々がよくいうている潮の干満はこれも問題にならないという事がわかりました。そこで潮の干満も人間の生活とは何の関係もない、という事が分かれば、今後はもう問題外にさせていただきたい、とこういうわけです。そんな事をあんた方に言うたところで何にもならん。これはクリスチャン以外の人に言う事ですけども、こうして日にちの問題、方角の問題、それから時間の問題、すべてこれは迷信であります。ですから今後は、いや、これはみなさんに言う言葉ではありません。

私たちの仏教ではですね、こう言うんですよ。黒板がないので書く訳にはいきませんが、仏教では、こ

ういう言葉を使っております。迷っているから三界は城である、という言葉があります。迷っているからこの世の中は石垣だらけ、あっちにも石垣がある、こっちにも石垣があって、なかなか通れない。迷っているからそうなるんだと悟ってごらん、一切空である。すべて空である。石垣なんかない。「本来、無東西、いずこに南北ありや」という言葉が仏教のお経の中にあるんです。つまり仏教でも方角を完全に否定しているのです。一切空です。神を信じている人々は、もう神様のおっしゃられていることだけを信じている。そういった方角だとか、時間だとか日とかいうことはもう、その吉凶は、信じておられないでしょう。仏教でもそういう事をいうわけです。キリスト教では「救われる」という言葉を使っています。仏教では悟りを開くと申しておりますが、この悟りを開くというのは難しい字で書けば「解脱」と言う言葉を使いますね。解き放たれるということが解脱です。つまり、迷いから解き放たれて、真理の世界に入っていくという意味ですが、この解脱することによって、我々は自由自在になる。つまり、自由の人間になれというのが、これは仏教の言葉でありまして、皆さん、あの自縄自縛（じじょうじばく）という言葉ご存じでしょうね。自分の縄で自分をくくっておる、つまり迷信に陥っている人はみんな自縄自縛です。方角のいい悪いもないのに、あちは方角が悪い、ここも悪いというふうにして、自分を縄で縛っておる。あるいは日にちでも、大安も、友引もありゃせんのに、そういうものがあると信じておる。

これも自分で縄をくくっておる人です。こういうふうなものから解放されて、解脱して、自由自在な人間になささいというて、我々は迷信打破をやっているわけなんです。まあ仏教の話をしましたので、ついでにもう一つ、二つ我々が使っている言葉ですが、あの「御馳走さま」と言う言葉を皆さんがお使いになっておられることと思いますが、あれも、仏教から来た言葉でしてね。「御馳走さま」の「馳」という言葉、馬へんに、「也」と書いて走るという意味ですね。馳走さまというのは「馳る、走るさま」、何が「馳る、走るさま」か、つまり、ここに食べ物がある、ここにきて自分が食べるまでの間に、その奥様が台所で一生懸命走りまわって、あるいはまた買い出しに行って走りまわってきた。そういうふうな、みんなの労働力によって、ここにこうしておいしいものがあったのである。だから、これは「馳る、走るさま、ありがとう」、労働力に対する感謝の言葉、これが「御馳走さま」ですね。おいしいという意味は一つもありません。労働に対する感謝です。これがまあ仏教からきた言葉ですが、その他、「すみません」という言葉よく使いますね。「すみません、マッチ貸して下さい」とよくいう言葉ですが、この「すみません」も仏教から来た言葉でありまして、これは、私はもう、世間の人々からの色々の恩沢によって世話によって、情によって生かされているんだと、それが、まだその恩返しもしないうちにまた金借りにきた、マッチ借りに来た、「済みません」、まだ恩義も返していないのに、又来たんですよ。「済みません」

は恩返しを未だ済ませていない、恩義を返していないということです。そういうふうに、仏教の言葉の中にも仲々いいのがありますよ。今日は特に、「沖縄の土俗信仰と迷信」と言う題になっておりますが、特に沖縄独特の土俗信仰について、お話をするということにします。

4. 生まれ年

沖縄でよく問題にされる「生まれ年」というのがありますね。今年は、お前の生まれ年だから、結婚をしてもダメ、旅行をしてもダメ、「ヤーウチ（移転）してもダメよ、ウスーコーもだめだよ」といったようなことを、よく沖縄の人が言うのです。

移転もだめ、旅行もだめ、何することも控えよ、と言うのが「生まれ年」ということになっていますね、これは勿論迷信です。生まれ年が、こういうふうに何もしてはいけない、これもしてはいけないというふうにいわれているのは、ちょっとこの考えすぎから来ているものでありまして、我々人間、一生生きている間に、のんびんだらりと何の行事もなく生きているということになるという、何らの反省もない生活になりやすいので、時々反省をさせる必要がある。自分が今やっている事はいい事かどうか、去年自分がやってきた事はよかった事か、悪かった事か、といったような反省をさせるという意味から、昔の人がですね、12年に一回生まれ年が回

ってきたら反省をせよ。又お前はスタートラインに立ったんだ。さあこれからもう一ぺんの生まれ年まで12か年、心を改めよく警戒をして立派な仕事をするように。立派な人間になるようにというて、昔の人が非常に注意をするという事を教えられたのです。それが注意、注意ということになっているので、何となくその年は悪いんだろう、何かあるんだろうと勘ちがいをしてしまって、それから生まれ年にはあれもしてはいけない、これもしてはいけないと言われるようになりました。

これはまことに残念なことでありまして、この十二支なるものが、中国から日本に伝わってきて、それが始めは大体この十二支というのは何の為につくられたかと申しますと、これは1年12か月を表す為につくったものです。一月、二月、三月というんではおもしろくないので、子の月、丑の月、寅の月・・・という風に十二支をあてはめてみようと、十二支にしようという事になりました。日本でもそうですね、師走（しわす）、霜月（しもつき）、弥生（やよい）といったような日本でも一月、二月といわずに、もう霜月だな、師走だなというふうに12か月を別のことばでいい表すようになりました。この十二支もそうなんです。中国でつくられた12か月を表す言葉です。それからいつのまにか中国の暇な学者でしょうね、これを人間にあてはめてみたり、年に当てはめてみたり或は方角に当てはめてみたり、時間にあてはめてみたりと、いろいろなものに当てはめてみまして、とうとう迷信をつくる、これ

が原因になっておるのです。これは今皆さんに申し上げたとおり、子、丑、寅、卯、辰、巳、午というふうにいうておりますけれども、中国ではそうは申しません。シー、チュー、イン、ポー、シン、シー、シンユウ、ジュツガイというふうにこう読むんですね。これが本当の読み方なんです。それがどうもこういう難しい言葉では大衆に広める訳にはいかない。何とかこれを大衆的にする方法はないものかという事になりまして、誰がいい出したかは知りま

せんが、動物の名に当てはめてみようという事になって、即ち子、丑、寅というものが出来上がったんです。シー、



チュー、イン、ポーといったものが、今は子、丑、寅、卯、辰、巳になってしまっていて、その意味では今度はその動物と何かの関係のある性質をもっているということですね。お前は丑の人だから何となく牛のよだれみたいにいつもだらだらしている。お前は鼠年だから、あっち見たり、こっち見たり引っ込んでみたり、出てみたりという性質だというふうな事までいわれるようになった。この十二支は、12 か月の別のいい表し方であるという事を考えていただきまして、生まれ年というものは、

これは何も関係がないという事を理解していただきたいと思います。それで沖縄でもこの生まれ年には、昔は十三お祝い、二十五、三十七、六十一、七十三、八十五、九十七のカジマヤーのお祝いとっているのですが、実はこれはお祝いではないんですね。厄払いだったんです。生まれ年が回ってきたから、死神、厄神を払わなければ危ないというので、昔は生まれ年の前の年を前厄、その年が本厄、その次の年が晴厄（はれやく）或は後厄（あとやく）というふうにしまして、これは厄払いという意味で、これをやっておったんです。つまり厄を払う為には、その死神とか厄神という奴は非常に力の強い奴でとても人間一人や二人の力では、おっぱらえないから、なるべく親戚やら友人をたくさん呼んで、そしてご馳走して、酒も飲め、舞もまえ、歌もうたえというふうな、いわゆるお祝い気分になってその力で、いわゆるウマンチュ（万人）のシー（精）というんですね。みんなの精力でもって死神、厄神をおぼっらうという事を昔の人はやったわけです。それから何となくお祝いみたいな気分になって、十三祝い、六十一の還暦の祝いとか、七十三の祝いといったような言葉を使うようになった。これは実際は、今申し上げたとおりお祝いではありません。厄払いの式ただなのです。しかし、それが厄払いという言葉をあまりいわないでお祝いという言葉にかわったのはいいかも知れません。死神、厄神なんていませんので、それも一つよくご理解をいただきたいと思います。十二支の中に、十二支を動物にあてはめる時に、鼠やら牛や

ら、馬やら虎がでて来ますが、一番身近かにいるのが猫ですよ、家の中におるのが。だから猫がはいりそうですが、猫がないんですよ。ある人がもし君、猫を入れたら、鼠が逃げるじゃないか、だから猫はいられないのだと冗談にいうておるのですが、この生まれ年というものは、先程も申し上げた通り 12 年にいっぺんは反省せよという意味のものであったという事だけをご理解願いたいと思います。



5. 火の神

沖縄では、火の神信仰というのがございますね。ヒヌカン、火の神さま、これは今から何千年前つまり原始時代は火の神さまというのは、全世界の人が火の神を信仰していたのです。それが転化したものがアラーの神であったり、日本では天照皇大神宮といったように、昔は火と関係のある太陽信仰だったのです。それが火というものはご存じの通り、何もかも焼き尽くす恐ろしい力があるというので、火に対する尊敬と恐怖から火の神信仰というものが全世界に最初、原始時代にあったわけなんです。もう現在のようにキリスト教、仏教などの高級な宗教がある以上は、早く火の神信仰を捨ててほしいと思うのですが、沖縄ではなかなかこの火の神信仰を捨てきれないんですね。最近、面白いのは竈（かまど）がなく

なりまして、皆ガスコンロやら電気コンロ等を使うようになりまして、一体火の神をどこに祭ったらいいかという事で困ってしまって、若夫婦などはもう火の神を信仰しないようになりました。その点は有り難いと思います。

早くキリスト教か仏教かに転向していただきたいと思うわけなんです。この火の神信仰は沖縄では、その家の守り神として火の神を信仰しております。つまり最高神ですね、最高の神さまなんです。沖縄としては。だから例えば赤ちゃんが生まれると、一番最初に拝しますのは火の神さまです。それからお仏壇の所に行って御先祖を拝しますんですね。先祖より尊いのですから火の神は沖縄では最高の守り神だった訳です。しかし、ご存知の通りそういった火の神、水の神、金の神、木の神といったようなものは、すでに迷信として現在では心ある人はもう信じておりません。沖縄も早くこの火の神を退けていただきたいと思います。

6. 仏壇

それから沖縄で非常に問題になるのは位牌なんです。キリスト教には位牌はないのでよくおわかりと思いますが、仏教にも位牌はなかったのです。釈迦時代には位牌はなかったのです。それが仏教がビルマ、ベトナムを経由して中国に輸入された時に中国で位牌というものがありました。これは中国の土俗信仰ですね。それは人

が亡くなった場合にそこにその人の姓名それからその上にその人の位を書くんです。例えば、勲一等、功一級とか、男爵とか村長とか議会議長とか、そういったような位階勲等（いかいくんとう）をその板ぎれに書く、だから位牌というんですね。位階勲等の位（い）、位という字を書いて位牌と申しております。この位牌をもって行列をして歩く、道を通る人が、ああこの人はこういう名前の人であって、こういう位の人であるかと理解してもらい、墓地にいて埋葬をして、土まんじゅうをつくって、その上に位牌を立てる、そして四十九日に石碑を立てて位牌はそこで燃やしてしまうというのが、これは中国の習慣だったんです。それを仏教がとりいれたんですね。仏教の中に、ああこれは法名を書くのに都合がいい、クリスチャン・ネームみたいに仏教では法名というのがあるんです。その法名を書くのに利用をしたんです。

沖縄では、この位牌を非常に大切にしておりましたね、位牌を新しくウシタテ（御仕立）すると、すなわち買うということになりますと、非常に慎重さをきしております、方角とか、日にちとかいろいろなことがあります、仲々解説出来ないくらいなんです。例えば亡くなった人を拝む時には御存知の通り、こうして目をつぶって拝した方がいいと思うのは、我々は肉眼があるんですね。何か見えるんです。例えばおい、今日はおばあさんの一年忌だよとかいう時に、家族が各々みんなおばあさんにむかって手を合わしなさいという時に、家族が各々みんなどこへ向かっていいのか、みんな目があるもんですか

ら、そこで一人はあっちむかっている、一人はこっち向かっているというんでは、おかしいんで、一つ信仰の対象として位牌をおこうと、位牌に向かって手を合わそうということになったんですね。都合がいいので仏教もこれを使っているんですが、しかし仏教としましてもこの位牌はないよりはあった方がいいんですが、なくても仏教ではすましているんです。キリスト教と同じように。何故かという、皆んなは位牌の中に死んだ人の魂がこもっていると信じているんですが、仏教ではこうはいりません。位牌には魂はいないというんです。じゃ何の為に位牌を拜むかという事になりますと、我々は位牌を通してあの世を拜むという訳なんですね。だから我々としては位牌はいつ買ってもよろしい、要らなければ捨てるもよろしいというんですが、沖縄の人はこれには魂が入っている、うかうかいつでも買えるもんじゃないというふうに考えているんですね。

それが困るんです。仏教の中にも位牌を用いない宗派があります。創価学会、それからもう一つは普通の仏教であって、浄土真宗、沖縄で言えば大典寺、真教寺といったようなお寺、あそこでは位牌を用いません。仏教でありながら全然位牌を用いない。私の方では用いております。しかし、なければいけないでもすますんですね。そういう意味です。沖縄の人は時々私の寺に位牌を持ってくるんです。この位牌は私たちが拜んではいけない位牌だそうですが、お寺で永久に預かってくれというて、よく持ってくるんです。私は位牌の説明をするんですがね、

これは魂は入っていませんよ。だから寺に預けても何もなりませんよ。位牌は要らなければ焼いてしまいなさいという、びっくりするんですね。「これを焼いたら、あんたヤラ、ヤラレル！！」（会場笑い）そういうふうには位牌や仏壇、或は墓——我々は仏教からみたら墓にも魂はいないというんです。じゃあ何の為に墓を拝むのか、墓には遺骨が入っている。その遺骨を通して、あの世の霊を拝むんだと我々はいうんです。だから夜、墓のそばを通っても幽霊はいないというんです。それをみんなは墓にも魂が入っていると思うんですね、それでも墓の事になると、一悶着起こるくらいやかましいんです。こう言った事を、迷信である事を口をすっぱくしてお話をするんですが、困った事に例えばです、昭和の始め頃、小祿の小学校で父兄会に対して、PTA に対して迷信打破の講演会をしてくれと頼みに来た婦人会長さんがおられました。私はその婦人会長さんの求めに応じまして、小祿小学校で迷信打破の講演をした事があります。それから二十年か三十年経った現在、その婦人会長さんがユタになっておるんです。（会場笑い）ビンシー持ってお寺回りして歩くんです。「はあ？あんた、あの時の婦人会長さんでしょう」といったら、「ハイ」というんです。「今はあんたユタですか」というと、「ハイ」というんです。つまり信念がなければ、いくらお話をしてもだめですね。私が迷信打破の話をして、あちこちの学校をよく回って、よく歩くんですが、その時に講演を終わると同時に、みなさんと約束をするんですよ。今日のお話わ

かりましたか？という調子で、今日からはもう日の吉凶は言いませんね、といった調子で、私が復習するような形で、みなさんと約束をするんです。その中に質問があって、「いい話をききました。しかし家に帰ったらだめです」というんです。「どうして」と言うと、「年寄りがありますからね、いくら私がこれは迷信だ、あれは迷信だというても、年寄りがおる以上これはとても出来ません。だから聞くだけにしておきます」と。それでは何にもならんのです。こういうふうに位牌や仏壇、お墓もいつ買うてもよろしい、いつ造ってもよろしいというふうな事を申し上げても、なかなか実行しにくいもんですね。これは誠に残念ですが。それで、私はある所で婦人会に講演をした時に、すみません、まだ一時間もあるのだが、おばあさんの方々も呼んできて下さいよ。あんたがたに話をしても、おばあさんがおる以上だめなんです。だからおばあさんにも嫁にも同時に聞いてもらわなきゃいかんというて、おばあさん連中も呼んできてもらってお話をした事もありました。そういうふうには迷信打破という仕事はなかなか難しいものでありまして、もう皆さんはクリスチャンですから、もう私の話をきくまでもないと思うんですけれども、とにかく沖縄では、こういうふうに根強い信仰があるのです。これを皆さんのお力で一つ大いに啓発をしていただきたいと思います。

7. 死者・墓

それから沖縄でですね、沖縄の独特の迷信の中で、こう言うのがあるのをご存じですか。「タチイマジクイ（他系混合）、チャッチウシクミ（嫡子押込）、チョウデーカサバイ（兄弟が重なる）、スーカーワタイ（潮河渡い）」わかりますか。タチイマジクイというのは、血統の違うものが死んで、墓に葬られた場合、その墓の中でけんかが始まるというんですよ。お前は何者だ、というふうにしてけんかが始まる。他系凶混り、他系凶の人が入ってきているのはいけないというんです。こういう事がありましよ。高良朝盛さんというて、戦前、俳優がおりました。その方には子供さんがない為に、よそから女の子をもらいまして育て、そして女学校にも入ったんですが、女学校一年生の時に病気で亡くなりました。それでいよいよお葬式の時に私が参りましたが、いざ墓へ行こうという時に問題が起こったんです。親戚のおばあさん達が、おいお前は、それはお前の本当の子じゃないだろう、養女だろう、系凶がちがうよ、血統がちがうぞ、そういう子をお前の墓に入れたら悪い、墓の中で、ご先祖が怒られる、何者を連れて来たんだといわれる、だからそれは墓に入れたらいかん、お寺に預けなさい、お寺には納骨堂があるよ、とこういうことになったんです。それでその夫婦はびっくりしましてね、この子どもは私の実の子ではありませんけ



れども、私が蝶よ花よと育てて、踊りも歌も教えて、戸籍にも入れてあります。それが今になって墓に入れたらいかんというんですが、お寺に預けてくれとこういうんですが、どうしたものでしょうかと。それで私はそこへ参りまして、おばあさん連中にお話をしました。おばあさん、あんた方はこんな事を言ったそうですな、そうしたらおばあさん、あんた方も死んだら夫の墓に入ってはいけませんよ。各々自分の生まれた実家に帰って実家の墓に入りなさいね。あんた方が夫の墓に入ったら、タイマジクイでございます。といったような話を一時間くらいやりまして、やっと了解してもらって墓に納める事ができました。こういった事を今まで信じている人が多いんです。例えば外人との子供、これが死んだ、家の墓に入れたらいかんというんです。私の寺には外人名前の遺骨をいくつか預かっているんです。それからチョウデーカサバイという事がありますね。兄弟が重なるというんです。つまり長男が死んだ、それで仕方がないので、次男が家督相続をする、その家を継ぐという事になるといって、もしその次男も死んだ場合は、兄さんと弟の二人の名前が位牌に並ぶというんですね。そうするとあんたの家は代々そういうふうになっている、いつも長男が死んで次男が後を継ぐというんですね。勿論これは迷信です。何の理由もないんです。ただそれだけの事で、代々そうなるというんです。そうなるという理由がないんですね。

理由がないのが迷信です。例えば三人並んで写真を写

したら真ん中の人は早死にする。何故早死にするのかわからない。マッチで火をつけたらいけないというんですね。何故ですかというたらわからない。意味の分からないのが迷信です。ちゃんと意味の分かっているものは正しい信仰ですがね、こういうふうに意味のないものが迷信です。井戸を埋める時に鏡を入れなければ悪い。何故ですか？わからんというんです。こういうものが迷信です。このチョウデーカサバイもそうですね。チャッチウシクミ、これもそうです。長男が死んだら、今度は次男、三男が後を継ぐという事は、この家は又永久に長男が死ぬという。先のチョウデーカサバイと似ているんです。それからスーカーワタイをして来た遺骨だというんですね。スーカーワタイといったら何かといえば、スーカーといえば、しおっからい、という意味ですから海のことです。海を渡って来た遺骨は、それには魔物がとりついている。厄神、死神がとりついているから、そういうものを家の中に入れてはいけない。棧橋からすぐ墓につれていきなさい。そういうのがそれなんです。これは海にこういう厄神、死神がいるという誤った信仰がある為にこういう迷信ができるんです。海外で或は本土で一生懸命働いて、そしてむこうで死んで、自分の故里にも帰らずに、むこうで異郷の空で死んで、せめて死んでからでも生まれた我が家に一晩でもいいから安置をしてお通夜をしてあげるのが、これが人情というものですが、それも許さないで、すぐ墓に連れて行け、といったような事はこれは勿論我々仏教から見てもいい事ではありません

せん。やはりていねいに扱ってあげたいですね。

8. 迷信はどのようにして作られるか

迷信というものはどういうふうにして作られるかという一つの例を申し上げたいと思います。女性の方ならば、よくご存知の通り、女性は結婚をしたら妊娠をする。妊娠をすると満五か月の戌（いぬ）の日に腹帯をするという習慣がありますね。腹帯、岩田帯と申しますが、これもつまらない事から始まったんですよ。これも今から千年程前、平安朝時代、藤原道長の娘で藤原の彰子という人が、天皇陛下の側室として宮中に入っていった。そして妊娠をした。いよいよ臨月になりまして、御産殿、つまり（産屋）にお移りになり、そしていよいよ陣痛が始まりまして、今日生まれるか、明日生まれるかという時に、なかなか生まれてくれないんですね、それが。それでみな心配している時に、どこから来たのか一匹の子犬が、その御産殿の下の方で遊んでいましたけれども、その後参殿の廊下の下へ入って行って、何を考えたのかその子犬は、きざ橋即ち梯子段を登って御産殿の上の廊下を走り回ったんです。びっくりした女官たちがとりおさえて、それを遠くへやりました。そして今陣痛が始まって難産苦勞をしておられる時に、戌がこんな所で遊んでいるが、これは何かの前知らせではないか、悪い前知らせではないかというので、宮中お召しかかえの易者、

「おんみょうじ」というんですが、その易者を呼んで占
わせたのです。そしたら、大江匡衡（まさひら）という
易者がやって参りまして、それを占ったんですけれども、
いくら易経という易者の本を調べてみても、犬とお産と
の関係を書いたものがないんですね。これを何と答えよ
うか、わかりませんでは信用にかかわる、というて一生
懸命考えた時に、トンチをめぐらしまして「うん、わか
った」というんで、御返事を申し上げたんです。「あの
御返事申し上げます。お生まれになられる方は、男のお
坊っちゃんでございます。そうしてまもなく皇太子殿下
になられ、そうして天皇の御位につかれる尊いお方でご
ざいます」という返事をしたもんですから、その陣痛を
している藤原彰子さんは、その話をきいていっぺんに力
を入れてウンとしたものですから、子供が生まれたんで
す。赤ちゃんが生まれた、男の子だったんです。立派に
当ててくれたというんで沢山ごほうびをもらったそう
ですが。

この赤ちゃんが 4 歳にして皇太子になり、9 歳にし
て御一条天皇と申し上げるかたになりました。で、その
易者の弟子たちがですね、先生私達も一生懸命この易者
の本を調べていますが、子犬と陣痛とお産のことはなん
にも書いていないんですが、一体どうしてこれを判断で
きたんですかと質問した所が、「いいか、これは秘密の
中の大秘密、誰にもいわないと約束をするんだったら教
えてあげる」「はい、いいません」と。「これはね、考え
てごらん、私がここに字を書くから、ようみておけよ」、

犬という字を書きました。「いいか、この犬がよ、始め
きぎはしの下、廊下の下へは行っていったら、この「」
が下へきたんだ。そしたら皇太子の太という字になるだ
ろうが、それが廊下に上っていったというから、上に上
っていった、即ち天皇の天という字になるだろう。だか
らぼくは皇太子になって、次は天皇になるところ判断し
たんだ。いいか、これは誰にもいうなよー」というた
んだそうです。（会場笑い）

これがその人の日記に書いてあったので、あとでばれ
て世間みんなに知れわたったんですが、これからです。犬
は縁起がいいという事になりまして、皆さんは2、3年
前テレビで徳川の大奥という映画をごらんになったと
思います、あの中でもあったように、もう女官たちが、
将軍の子供を産みたい、しかも男の子を早く産みたい、
男の子を一番先に産んだ人が将軍のお母さんになるん
だ、そしてその一族郎党みんな出世する、という。そう
いう事があったもんですから、宮中に仕えている女官連
中はみんな早く男の子が欲しいです。それで藤原の彰子
さんはあの子犬のおかげで天皇を産んだんだという事
になりまして、それから後はもうみんな子犬を飼ってい
るんです。お互いに顔を見合わせて、あいつも飼ったな
というんで、おかしくなって、とうとうお互いに犬を飼
うことをやめたんですが、それでもやっぱり犬張子とい
うお人形をこうてきて、タンスの引き出しの中にいれて
あったそうです。みんな人にみえんように。まあこうい
うふうに、ちょっとした事から千年前のあの行事が、今

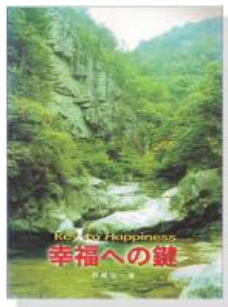
でも我々の家庭で行われている。みなさん御夫人の方々、結婚しておられる方々は5か月目の犬の日に腹帯をされたんじゃないかとおもいますが、これはこういう事から始まったんですよ。実につまらん事ですね。そういうちょっとした事から迷信というものは生まれるんです。私がいっぺんある所でお話をしている最中に、いいですか、皆さん私もこれから迷信をつくってみせますが、聞いて下さいよ、というてある話を、迷信をつくってその場で即座にですよ、こういうたんです。そしたらみんなが、ああそれは先生本当ですかという。今言ったでしょう、わたしがこれからつくってみせる、迷信だと言ったでしょう。

そうですか、それは本当だと思ってびっくりしましたというんです。まるで落語みたいですけどなあ。これは本当につまらんことなんです。つまらんところから迷信がうまれてくるんです。どうぞクリスチャンの皆さん、沖縄の迷信打破の為に一役も二役もこうて、大いにキリスト教を広めて、沖縄から迷信を一日も早くなくして、住みよい朗らかな沖縄にさせて下さい。これをもちまして、私のまあ、あまり面白くない話でございましたけれども、終わらしていただきます。(拍手)

(文責・・饒平名)

Free Books

贈呈書籍



幸福への鍵

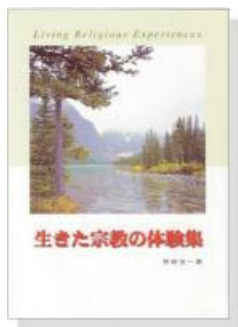
野崎金一 著

本書は聖書にもとずいて聖書の重要な真理—「現代の真理」（2ペテロ1:12欽定訳）のいろいろな主題を扱っています。現代の人の必読の書と言えます。

生きた宗教の体験集

野崎金一 著

過去における多くの先輩達の体験を参考にするならば確かに、私達の信仰が高められる力を得ることができると信じます。私達を単に感動させるばかりでなく、私達の信仰を向上させ、幸福に導くことと信じます。



サンライズ ミニストリー

〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊1471

Tel (0980) 56-2783 / Fax (0980) 56-2881

E-mail: contact@srministry.com

ホームページ: www.srministry.com